

## ノルウェーのサーメ人のための幼稚園教育

—オスロ（Oslo）チザ・サーメ幼稚園を訪問して—

名古屋大学大学院生 長谷川 紀 子

私は、2009年8月、名古屋大学横山先生を団長としたノルウェー・テルマーク教育大学の国際会議・現地視察ツアーに参加した。その内容は、ノルウェーの保育現場の実践から職業教育まで多岐に渡るもので、ノルウェーのユニークな学校教育への取り組みの側面を垣間見ることができた。ここでは、その1つ、オスロにある北方先住少数民族のサーメ人のための幼稚園を紹介する。サーメ人とは、ラップランド(Lapland)地方、いわゆるスウェーデン、ノルウェー、フィンランドの北部とロシアのコール半島にまたがる地域に住んでいる北方先住民族であるとされている。現在、サーメの総人口は約7万人と推定され、ノルウェーに住むサーメ人は4万人以上とされている。しかし、同じ民族でありながら、地域によって言語やまた生活体系も異なり、また、辿ってきた歴史も様々な経過がある。

現在、ノルウェーの学校教育において、サーメ人のための教育を公教育の中で導入させていこうとする試みが、1987年に改定された学習指導要領の中で具体的に明文化され、それ以降、サーメ人の言語や文化の位置づけが拡大した。また、それにより幼稚園、基礎学校などにおける授業の中で、サーメ語や文化をどう扱うかについても、各市町村で様々な取り組みがなされている。

幼稚園訪問先の外枠は以下の通りである。

- ①2009年 8月18日（火曜日）
- ②チザ・サーメ幼稚園（Ciza' Samisk barnehage）オスロ（Oslo）
- ③マリ・ヘランデル（Mari Helander）30代女性 幼稚園の園長。
- ④運営方法と意義について

Ciza'サーメサーメ幼稚園は、定員数0歳～2歳まで12名、3歳から5歳まで22名。

林の中にある園の入り口を入るとまず目に留まるのは、移動型サーメ人住居用テントティービーである。その中でインタビューを行った。現在、この幼稚園に通う子どもはサーメ人の子どものみ。公立の幼稚園のため、オスロ市は近隣のサーメ人以外の子どもも入園できるように要請しているが、現在、園としてはサーメ人のこどものみに入園許可を出している。その理由として、サーメ文化のみの環境にすることによって、サーメ言語を中心とした、より集中したサーメ人のための就学前教育を提供していこうとする園の方針がある。サーメ人就業前教育の内容の特色として、サーメ語（北サーメ語）、サーメの歌とダンス。簡単なサーメの伝統工芸（ドウオツジ）のクラフトの導入が見られる。また、2年前から、サーメ人のおばあさんに週に1回園に来てもらって、昔話や、サーメの特別な食事な

どの作り方などを紹介してもらっている。サーメ教育の特別な活動として、毎年9月にトナカイの解体を行う。毛皮を剥ぐ作業から、食肉処理、角の利用まで一連の作業を通して、トナカイを余すことなく生活に利用してきたサーメ人の伝統的な生活様式を体験させるためである。ヘランデルさんの話では、子どもたちは、その年に1回のトナカイの解体作業を楽しみにしているそうだ。トナカイ放牧は、サーメ人の特色を表した代表的な職業であり、日本でも、サーメ人というとトナカイの大群と大自然の中を移動するイメージがあるかもしれない。しかし、実際は、トナカイ放牧業を営むサーメ人は全体の10%にも満たない。まして、オスロ市内に住むサーメ人にとっては、縁の薄いものであろう。それでも、トナカイ解体作業は、サーメ人にとって自分たちのアイデンティティを確認し、打ち出すのに十分に必要の要素であるといえる。

実は、祖父母世代を学校に招き、サーメ言語や文化を伝承してもらったり、トナカイの解体作業を行ったりする活動は、この園だけの特別な活動ではなく、現在、ノルウェー各地のサーメ人学校教育で取り組まれてきている。南サーメ地域<sup>1)</sup>にある2校のサーメ人学校も同様のカリキュラムを持っている。

ノルウェーでは、1870年代から1960年

トナカイ放牧サーメ人の移動型住居



代にかけて、サーメ人をはじめとする少数民族に対する強い同化政策が取られた。そのために、サーメ語を話すことはおろか、自分の子どもたちにサーメ人であることも隠していた家族がついに最近まで多く存在した。しかし、多文化性・多文化社会がはっきりとした特徴となってきた80年代以降の北欧諸国は、国内の少数民族や少数言語集団に対する個々の伝統文化、言語使用やその権利に対して法制面での保障の充実と共に、教育の面においても、より多くを反映させる努力がなされてきた。

教育面においては、先に述べたように、地域のコミュニティのなかで、言語問題を中心に置き、また元々の現地の言葉や話者や文化を知っている人物に子どもたちが可能な限り自然な形で出会う機会をつくるのが強く強調されるようになった。またそれを、プレスクールレベルで展開しようとしたプロジェクトは先住民族の言語教育の国際的なトレンドとなってきた<sup>2)</sup>。

ノルウェーでは、特に、サーメ人がある程度集中して住んでいる北部以外のサーメ地域では、独自の言語や文化を継承するために学校教育機関を必要とし、実際に各市町村とサーメ人学校と親が連携したこのような様々なプログラムが展開されている。このような取り組みは、世界中にいる少数民族のための学校教育に1つの可能性を示唆するものであろうと考えられる。

- 1) ノルウェー中部に位置するサーメ言語区分最南端の地域。現在約300人程度とされ、サーメ人の中でもさらに少数グループの1つである。
- 2) Todal John, "Sorsarmisk vitalisering gjennom barnehage og skole" *Samisk Språk i Svabken Sijte*, Sami Instituhitta, 2007.